

2024年5月15日  
国立大学法人東京藝術大学

東京藝大×JR東日本 上野駅「CREATIVE HUB UENO “es”」

新進気鋭の工芸作家

寺内木香 個展「ねんどのへや」開催のお知らせ



《思い出の部屋》2021、ブロンズ、真鍮 h600×w1600×d1200(mm)

この度 JR 上野駅構内に新設の「CREATIVE HUB UENO “es”」（2024年4月開設）では、第2回目の展示として、新進気鋭の工芸作家・寺内木香（てらうち ここ）の個展「ねんどのへや」を2024年5月28日（火）～6月23日（日）に開催します。

本ギャラリーでは、東京藝大の各科より推薦のアーティストの展示を開催しています。寺内木香氏は、東京藝術大学在学中に『安宅賞』や『サロン・ド・プランタン賞』を受賞し、さらには2022年度東京藝術大学卒業・修了作品展にて、工芸科・工芸専攻の学生でただ一人に与えられる「買上」認定を受けた、今注目の若手工芸作家です。本展示では、祖母との記憶を立体作品へと再構築した大型の鍍金作品《思い出の部屋》や新作を発表いたします。

## &lt;開催概要&gt;

- 展示会名：寺内木香 個展「ねんどのへや」
- 会期：2024年5月28日（火）～6月23日（日）
- 休場：月曜定休
- 時間：11:00～19:00（最終入場 18:45）
- 会場：CREATIVE HUB UENO “es” 東京都台東区上野 7-1-1（上野駅浅草口付近）
- 入場：無料
- ウェブサイト：[https://ueno\\_es.jp/](https://ueno_es.jp/)

## ■アーティスト・ステートメント

記憶の中に存在する空間は 360 度完璧に覚えているわけではなく、自分の定位置から見たイメージ・写真からの角度・思い入れのある質感など、その人にとっての「特別」を残して本物から少しずつ形を変えていく。そうやって変化した記憶の空間を立体へ再構築することで、本物より強い想いを秘めた金属作品へと昇華させている。

## ■寺内木香 | 作家プロフィール



2023 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程工芸専攻(鑄金) 修了

主な受賞・展示歴

2019 安宅賞

2021 第 69 回東京藝術大学卒業・修了作品展『サロン・ド・プランタン賞』

2023 第 71 回東京藝術大学卒業・修了作品展『買上げ』

個展『JUMBLE DIVE』(Bohemian's Guild CAGE、東京)

祖母は紙粘土で人形などの作品を制作しており、その影響が作家自身の創作活動の根底にある。紙粘土の性質上、祖母の作品は劣化しやすく遺品整理の際にだいぶ少なくなってしまった。この日、私は今まで作品であったものが突然ただのものとなり、それがまとっていた思い出もなくなってしまうような寂しさを感じた。

この経験をきっかけに「記憶を残す」ことに関心を抱くようになり、朽ちにくい金属を素材として記憶を題材に制作をしている。

## ■推薦者のコメント

寺内木香の作品は、祖母と過ごした記憶や都市の記憶など幼少の頃の自身が触れあった形態の記憶が基になっています。その鮮明なかたちと曖昧なかたちに存在する記憶に残る形態感が自身の五感の中で感覚的に再現されたものです。これらの造形は寺内の造形力からして編み出され、鑄金によって表出されるかたちと相まって独特の世界観を創りあげています。この造形が持っている世界を是非ご高覧ください。

東京藝術大学 美術学部 工芸科鑄金 教授 谷岡靖則

## ■CREATIVE HUB UENO “es”とは

東京藝大と JR 東日本の包括連携協定の第一弾として、上野駅の交番跡地をリノベーションし誕生したギャラリーです。東京藝大の学生・卒業生の若手アーティストの作品を展示し、時代を映し出す芸術作品に触れ合う機会をつくれます。また、上野駅全体を美術館に見立て、駅構内に点在するアート作品等をご案内し、多様な文化交流の場を創出していきます。

ギャラリー名の“es”（エス）とは、心理学用語で「無意識の領域」を指し、多様な欲望やエネルギーを内在し、小さくとも無限の表現領域を体現できるスペースを目指して命名しました。

